

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年7月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	"0175000694
法人名	(有)ラポートケア
事業所名	グループホーム ふ・れ・や・か・和
所在地	090-0061 北海道北見市東陵町48番地の19 (電話) 0157-22-4055

評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成21年6月30日

## 【情報提供票より】(21年5月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 20 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	7 人
非常勤	9 人
常勤換算	4.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	4階建ての 1階 ~ 4階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	18,000円(10~3月 暖房費7,350円)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	380 円
	夕食	380 円	おやつ	60 円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要(5月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	清月クリニック ・ 緑町歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北見市東陵地区の住宅街に位置する当ホームは、鉄筋4階建ての1階2階・3階4階がそれぞれ一つのユニットになっており、エレベーターで行き来することができます。玄関前には利用者が手入れをしている花のプランターが並べられ、裏の畑で採れた野菜は利用者の食事に添えられて楽しみとなっています。地域の中でその人らしさを尊重し、ゆったり、ありのままに、和みのある生活を提供したいと開設時に施設長が想いを込めて作成した理念を職員は共有し、利用者の個性を尊重しながらケアサービスに努めています。利用者の安全にも配慮し、一人で外出した利用者には地域の方々から認知症の理解を深める取り組みの中で協力をお願いし、災害対策の面でも本年度スプリンクラーを設置し、避難の際の地域協力体制も整備され、地域に根ざし共存しながらのんびりと笑いのあるホームを目指し取り組んでいます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点自己評価、介護計画に沿った支援については職員で話し合い、改善に取り組んでいます。災害時の地域協力は、地域住民や運営推進会議での協力を得ながら、体制作りにも努めています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については職員が意義や目的を理解しながらそれぞれ項目別に担当し、管理者がまとめて作成しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年7月から中断していましたが、今年3月より2ヶ月に一度、町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・地域協力企業・利用者家族等が参加し開催しています。ホームの近況報告、地域住民との交流や協力体制、地域包括支援センターからの情報提供等が話し合われ、地域の障害者NPO法人の紹介も行われ、高齢者、障害者にやさしい地域を目指す取り組みに発展しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	外部、内部の苦情窓口を入居時に説明し、意見箱も設置しています。職員は家族の来訪時に何でも言って貰える関係作りを心掛け、意見や相談があったときは、会議にて話し合い情報を共有し、日々のケアに反映しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し役員を引き受け、総会、清掃活動にも参加しています。町内会行事のビールパーティー、花見、盆踊り等利用者と楽しみ、災害時の協力体制も築かれています。市内中学校の体験学習への協力や幼稚園の運動会に参加し、交流を図っています。

(有)NAVIRE

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『「自由に、ゆったり、ありのままに」「その人らしさ」を尊重し、「第二の我が家」を目指して地域とふれあいます。』を独自の理念に掲げ、地域で安心して暮らせることを大切にしています。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、日々のケアサービスで実践できるよう取り組んでいます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、行事に参加しています。町内会に「やわらぎ通信」を発行したり、事業所の行事にボランティアが訪問するなど地域との連携を図っています。利用者が作成したアンパンマンの貼り絵が園児にプレゼントされ、喜ばれています。		
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価を実施する意義や目的を理解しており、自己評価は項目ごとに手分けして記入し、管理者が一つにまとめています。改善点については職員で話し合い改善に向けて取り組んでいます。	○	自己評価は項目のねらいを掘り下げながら課題を明らかにしたり、サービスの実践に繋がられるよう全職員で取り組むことを期待します。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。ホームと地域交流・火災訓練等を報告し、意見交換しサービスに活かしています。地域の障害者NPO法人(とむての森)を地域で支える取り組みが行われています。議事録は玄関のお知らせ板に掲示されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて担当者と連携を取っています。市の研修・勉強会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「やわらぎ通信」で利用者の暮らしの様子や家族の訪問時に近況・金銭報告をしています。状況の変化に応じてその都度、電話で連絡・相談しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は外部・内部の苦情窓口について説明しています。意見箱を設置していますが、実際の利用はなく、家族の訪問時に意見を聞くよう努めています。又、家族会前にアンケートを送付し、意見等が出しやすいよう工夫しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、管理者は職員とコミュニケーションを持ち、働く意欲が継続できるよう取り組んでいます。異動の際も異動した職員がユニット間を行き来する等し、利用者には不安を与えない体制になっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は勤務状況により参加できる研修には積極的に参加し、ミーティングの中で報告して情報を共有しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長がグループホーム協議会副会長で、同業者との研修・勉強会には職員も積極的に参加し、交流しています。施設長は同業者同士がお互い意識を高めることができるようネットワークの構築に努め、グループホームの向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者・家族にホームを見学してもらい、できるだけ利用者と会う機会を設ける等し、雰囲気馴染み、納得して入居となるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から調理や畑作業、昔の事など、得意な事を教えてもらいながら支え合う関係を築いています。又、食後の後片付けなども利用者の力量に応じて一緒に行うことを実践しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は個別担当制となり、日々の関わりの中から希望、意向の把握に努め、その人らしい暮らしとなるように支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	会議の中でアセスメントし、本人、家族の意見や希望を取り入れた利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(6ヶ月)な見直しを行うとともに、3ヶ月ごとのモニタリング、毎月のケア会議の中で利用者の状態を見極め、必要に応じてケアの見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて通院や送迎・買い物など、必要な支援を柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、主治医による往診や利用者・家族の希望する医療機関への受診ができるよう支援しています。又、週1回の訪問看護師による健康管理がされ連携がとれています。複数の医療機関と関係を密に結び、相談しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、看取りに関する対応の指針が整備され、主治医の往診(2週間に1度)により協力体制はできています。家族・職員と話し合いがまだされていません。	○	できるだけ早い時期に関係者全体で話し合い、方針の統一を図り、利用者・家族の思いを汲み取りながら支援に繋がられるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーを尊重して支援することを意識し、個々の利用者の状況により接し方、声かけを工夫しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の人数等により希望に添えないこともありますが、利用者が望む過ごし方、本人のペースを尊重した対応をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は系列会社の献立を参考に職員が工夫しています。収穫した野菜を調理したり、時には施設長がラーメンを作り、振る舞うこともあります。利用者の力に応じて、食卓の準備や後片付け等を一緒にしながら楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や体調に合わせた入浴の支援をしています。入浴拒否が続いたときは日帰り温泉、銭湯などで対応しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者・職員は利用者一人ひとりの力を活かし、習字・カラオケ・合唱団への参加・喫煙等、日々の生活に張り合いや楽しみ事に繋がる支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中は鍵をかけておらず、職員の見守りの中自由に戸外へ出かけています。普段行けない所(お墓参り、住んでいた家)にも出かけ、利用者の希望に添った支援に努めています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設長・管理者・職員は鍵をかけないケアの大切さを理解しており日中は鍵をかけないことを実践しています。SOSネットワークや町内の協力を得るなど、一人で外出した際の利用者の安全確保に努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域住民の協力を得て通報・避難・消火等の避難訓練を実施しています。又、夜間を想定した避難訓練にも取り組んでいます。災害に備えて、本年度スプリンクラーが設置されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事・水分摂取量を把握しており、一人ひとりの状態に応じて支援しています。塩分計量スプーンを利用し、減塩に努め、献立は主治医のアドバイスを受けバランスのとれたメニューになっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は行事の際の写真や利用者の書いた習字等が貼られ、季節感や生活感が感じられるよう工夫しています。日中多くの時間を過ごす居間は利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた馴染みの物が置かれ、その人らしく安心して過ごせるよう工夫しています。職員が描いた利用者本人の似顔絵が貼られ、暖かい雰囲気になっています。		